

# 平成 20(2008)年エイズ発生動向 概要

厚生労働省エイズ動向委員会

エイズ動向委員会は、3ヶ月ごとに委員会を開催し、都道府県等からの報告に基づき患者発生動向を把握し公表している。平成 20(2008)年 1 年間の発生動向について概要を取りまとめたので報告する。本年は HIV 感染者が 1126 件、エイズ患者 431 件と、新規発生件数は 1557 件で、前年より 57 件の増加となった。HIV 感染者、エイズ患者ともに増加の状況が続いている。

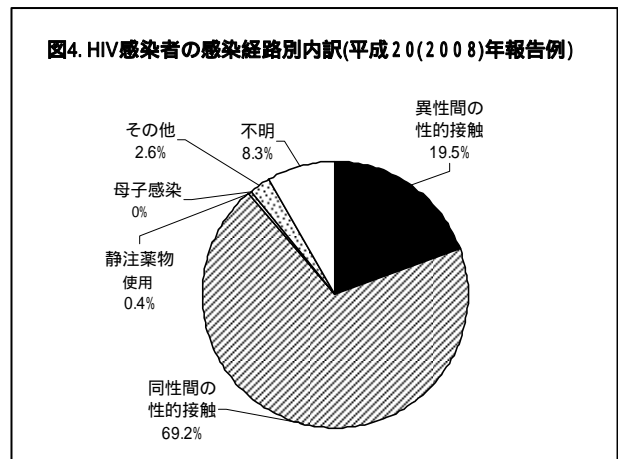
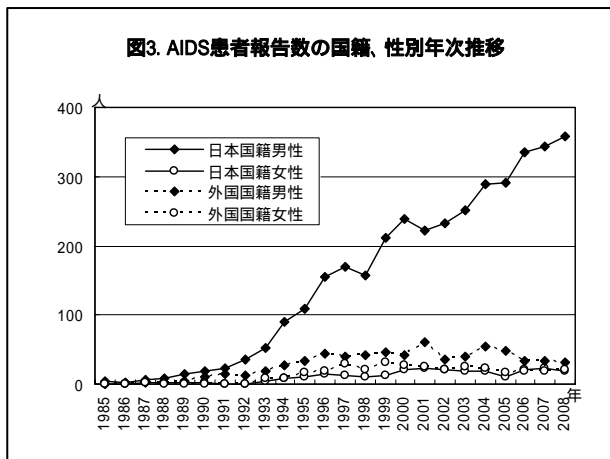
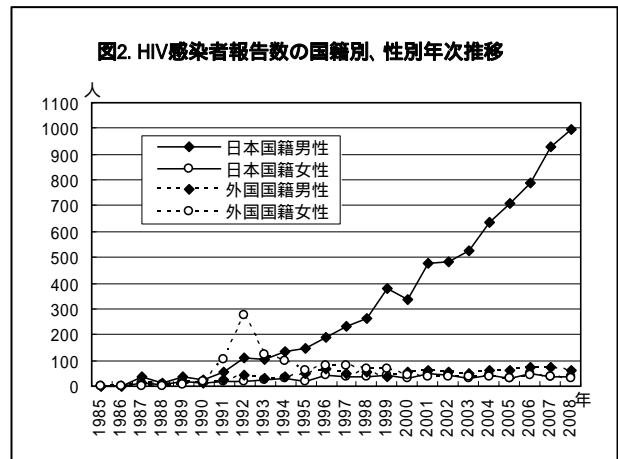
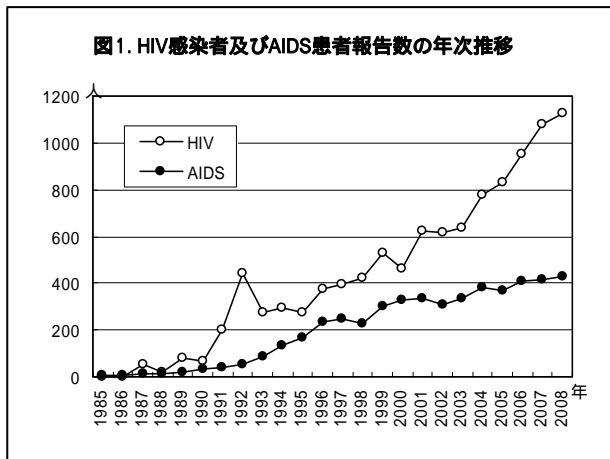
## 1. 結果

### (1) HIV 感染者の報告数

平成 20(2008)年は 1126 件と引き続き過去最高の報告数となった(図 1)。最近 5 年間の HIV 感染者報告数は 4772 件で累計の 45.2%を占めている。日本国籍例は 1033 件で、このうち男性が 999 件と大半を占め、前年より 68 件増加した。日本国籍女性例は 34 件で前年より 4 件少ない。外国国籍例は 93 件、このうち男性が 60 件、女性が 33 件で、共に前年より少ないが、経年変化はほぼ横ばいの状況にある。(図 2)。

### (2) AIDS 患者の報告数

平成 20(2008)年は日本国籍、外国国籍合わせて 431 件で前年(418 件)より 13 件の増加であった(図 1)。最近 5 年間の AIDS 患者報告数は 2007 件で累計の 41.0%を占めている。日本国籍例は 378 件で前年(365 件)より 13 件増加し、外国国籍例は 53 件で前年と同数であった。日本国籍男性例は前年(343 件)に比して 16 件多い 359 件で、日本国籍女性例は 3 件少ない 19 件であった。AIDS 患者は日本国籍男性例で増加が続き、他の国籍・性別報告例は横ばいの状況にある(図 3)。



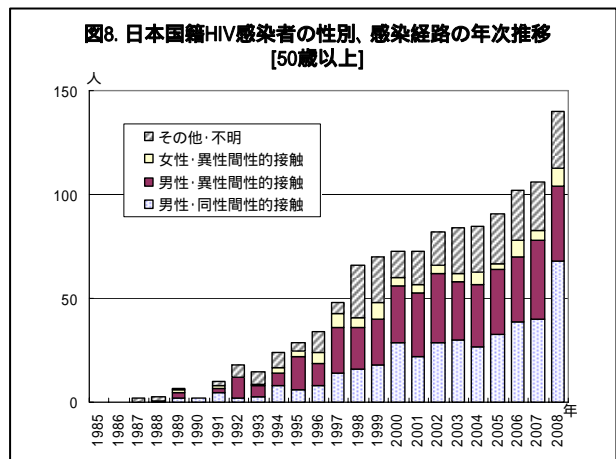
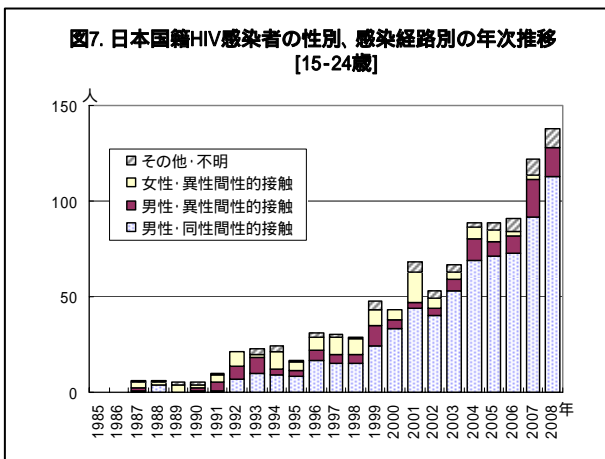
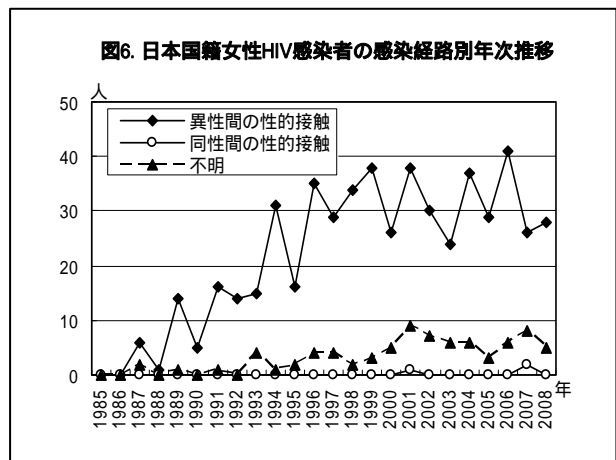
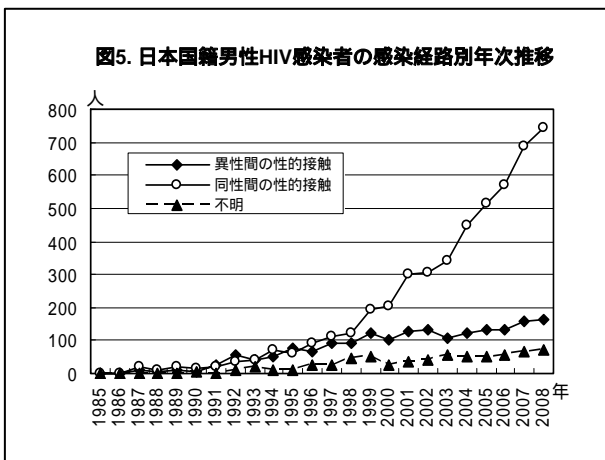
### (3)感染経路

#### HIV 感染者

平成 20 (2008) 年の HIV 感染者報告例の感染経路は、異性間の性的接触が 220 件(19.5%)、同性間の性的接触が 779 件(69.2%)で、性的接触によるものがあわせて 999 件(88.7%)を占めた(図 4)。

日本国籍例では、男性同性間の性的接触は 743 件で、前年(690 件)に比べて 53 件の増加であった。また、異性間の性的接触は男性が 161 件(前年 156 件)、女性が 28 件(前年 26 件)で前年とほぼ同数であったが、経年的には微増傾向の推移であった(図 5、6)。

本年の日本国籍 HIV 感染例のうち、男性同性間の性的接触による感染は 15-24 歳の年齢層では 81.9%、25-34 歳では 78.0%、35-49 歳では 70.8%を占め、50 歳以上でも 48.2%と異性間の性的接触(25.9%)を超える割合であった(図 7、8)。日本国籍の異性間 HIV 感染者の年齢階級別・性別構成は、累計で見ると、15-19 歳、20-24 歳では女性の割合が高く、他の年齢層とは異なっている(図 9)。この傾向は本年報告例でも同様である。



#### AIDS 患者

本年の AIDS 患者報告例の感染経路は、異性間の性的接触による感染が 147 件(34.1%)、同性間の性的接触による感染が 189 件(43.9%)で、性的接触による感染は合わせて 336 件(78.0%)を占めた(図 10)。

日本国籍男性例の感染経路を見ると、同性間性的接触は 181 件(前年 152 件)で 29 件増加し、異性間性的接触は 107 件で前年と同数の推移であった(図 11)。年齢階級別では、日本国籍 AIDS 患者は 30 歳代、40 歳代の中高齢層の報告が中心であるが、この年齢層の最近の報告推移は横ばい傾向である。しかし、15 - 24 歳、50 歳以上の年齢層は増加傾向にある(図 12,13)。

なお、静注薬物使用や母子感染によるものは HIV 感染者、AIDS 患者ともにいずれも 2%以下にとどまっている(図 4、10)。

図9. 日本国籍異性間HIV感染者の年齢別、性別内訳(累計)

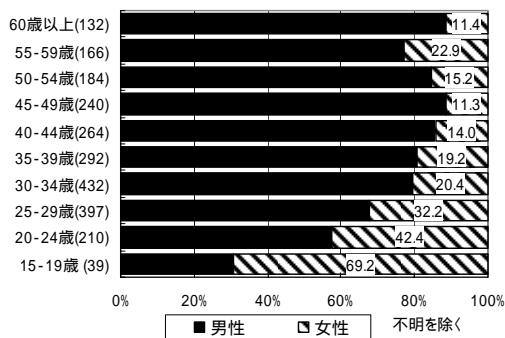


図10. AIDS患者の感染経路別内訳(平成20(2008)報告例)

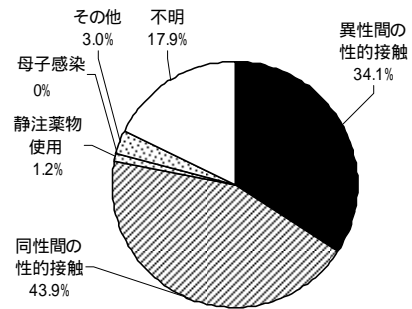


図11. 日本国籍男性AIDS患者の感染経路別年次推移

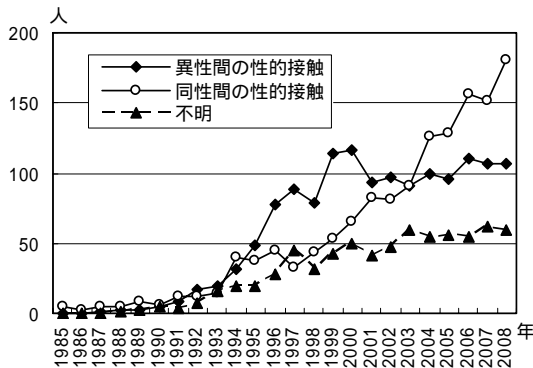


図12. 日本国籍AIDS患者の性別、感染経路別の年次推移 [15-24歳]

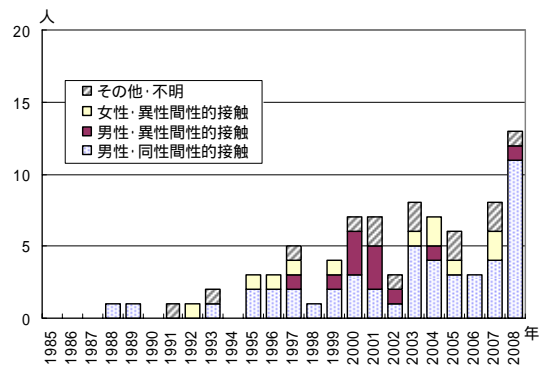


図13. 日本国籍AIDS患者の性別、感染経路の年次推移 [50歳以上]

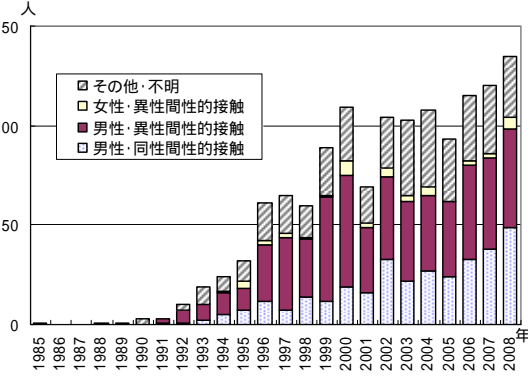
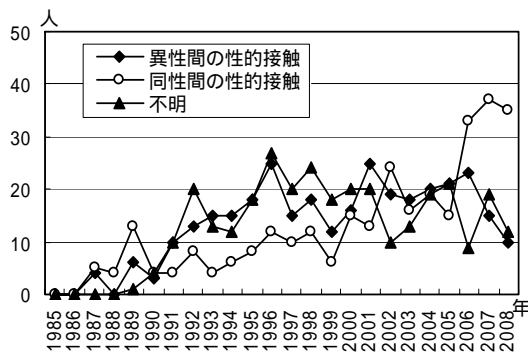


図14. 外国籍男性のHIV感染者の感染経路別年次推移



(4)外国国籍報告

本年の外国国籍の報告例は、HIV感染者が93件(前年113件)、AIDS患者では前年と同数の53件であった。HIV感染者、AIDS患者共に異性間の性的接触による感染例は増減を繰り返しつつ横ばいの状況にある。また、同性間の性的接触による感染例はHIV感染者が前年に増加傾向を示したが、本年はほぼ同数で推移した(図14)。外国国籍者については、国内感染例が占める割合も増えつつあり、予防とケアの対策を強化する必要がある。

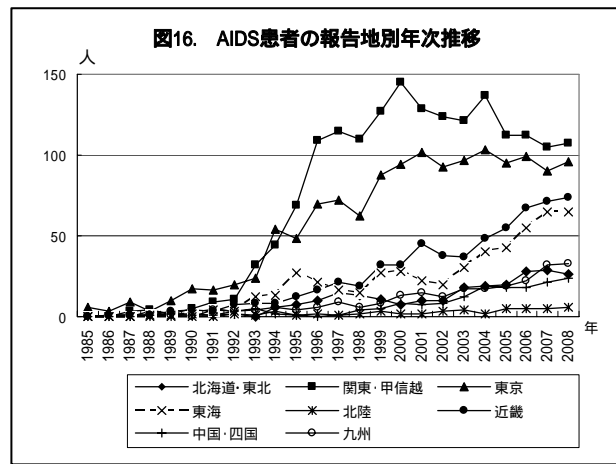
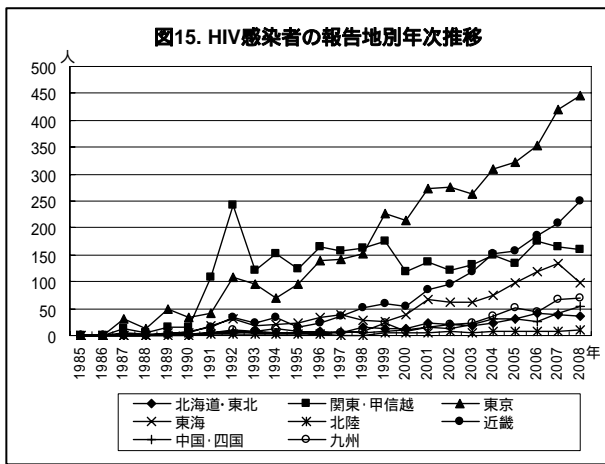
(5)推定される感染地域および報告地

HIV感染者の推定感染地域は、全体の87.3%(983件)が国内感染で、日本国籍例(1033件)の大半(944件、91.4%)を占めていた。AIDS患者の推定感染地域は全体の69.1%(298件)が国内感染例で日本国籍例では75.9%を占めている。外国国籍例では国内感染例は20.8%であったが、経年的には国内感染例の占める割

合が増しつつある。

報告地ではHIV感染者は、東京都を含む関東・甲信越ブロックからの報告が多く、累計では64.6%を占める。同ブロックの報告は1996年以降増加傾向にあり、特に東京での増加が著しく本年は447件となった。近畿ブロックからの報告数は1998年以降増加が続き、特に大阪府からの報告の増加が顕著で本年は187件となった。また、東海ブロックは前年に比して35件の減少であったが2001年から報告数の増加がみられている。その他中国・四国、九州でも増加傾向にある(図15)。AIDS患者の報告地別分布はHIV感染者とほぼ同様で、累計では東京都を含む関東・甲信越(63.3%)に集中している。これらの地域は経年変化では横ばい傾向あるいは減少傾向にあるが、他の地域は増加傾向にある(図16)。

本年報告数の上位10位は、HIV感染者では東京都、大阪府、神奈川県、愛知県、福岡県、兵庫県、埼玉県、千葉県、静岡県、京都府で、AIDS患者では東京都、大阪府、愛知県、千葉県、神奈川県、埼玉県、兵庫県、北海道、福岡県、栃木県であった(図17)。



## 2. まとめ

わが国においては、日本国籍男性を中心に、国内での性的接触を推定感染経路とするHIV感染者、AIDS患者報告例の増加傾向が続いている。最近5年間の報告例は、HIV感染者、AIDS患者ともに累計の40%以上を占め、近年の報告が著しいことがうかがえる。

感染経路では男性の同性間性的接触による感染例の増加が著しく、特に15歳から49歳までのHIV感染者では同性間性的接触による感染例が70%を超える割合で増加が続いている。なお、男性の異性間性的接触による感染例が微増傾向にある。

AIDS患者では30歳代、40歳代を中心とした中高年齢層での報告に加え、50歳代、60歳以上の年齢層でも増加傾向が見られている。

HIV感染者とAIDS患者を合わせた報告数は、東京都および関東・甲信越(東京都を除く)、近畿、東海地域に加え、中国・四国、九州ブロックなど、ほとんどの地域で増加傾向にある。

HIV感染の現状と正確な情報を広く国民に向けて広報するとともに、各自治体にあってはHIV感染対策への取り組みとして、特に男性同性間の性的接触によるHIV感染について、エイズ予防指針を踏まえ、普及啓発・早期発見・早期治療に向けた対策、HIV陽性者への相談等の支援などの対策を進める必要がある。

図17. HIV感染者、AIDS患者報告数上位10位の自治体

a HIV感染者上位自治体			
自治体	2008報告数	自治体	人口10万対*
1 東京都	447	1 東京都	3.50
2 大阪府	187	2 大阪府	2.12
3 神奈川県	66	3 沖縄県	1.17
4 愛知県	62	4 愛知県	0.84
5 福岡県	29	5 神奈川県	0.74
6 兵庫県	28	6 京都府	0.72
7 埼玉県	27	7 岡山県	0.72
8 千葉県	25	8 香川県	0.70
9 静岡県	24	9 石川県	0.68
10 京都府	19	10 滋賀県	0.64

b AIDS患者上位自治体			
自治体	2008報告数	自治体	人口10万対*
1 東京都	96	1 東京都	0.75
2 大阪府	51	2 愛知県	0.64
3 愛知県	47	3 大阪府	0.58
4 千葉県	31	4 沖縄県	0.51
5 神奈川県	26	5 千葉県	0.51
6 埼玉県	14	6 栃木県	0.50
7 兵庫県	13	7 香川県	0.40
8 福岡県	12	8 長野県	0.37
9 北海道	12	9 岡山県	0.36
10 栃木県	10	10 石川県	0.34